

<b>マシン油乳剤 トモノール</b>	<b>取扱メーカー：</b> O A T *  <b>原体メーカー：</b> —
<b>成分：</b> マシン油……………95.0% <b>その他 PRTR 該当成分：</b> ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル〔PRTR・1種〕…1.6%	<b>性状：</b> 淡黄色澄明可乳化油状液体 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> 第4類・第4石油類（非水溶性）・危険等級III

### 【品目特性】……………

- 冬期散布により果樹のカイガラムシ類などの越冬害虫に優れた効果。
- 物理的な殺虫効果を示し、抵抗性ハダニに対しても有効で、越冬後密度の低下に効果がある。
- 付着性、拡張性が良く、的確な効果が得られる。
- 有機 JAS 使用可能農薬。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

#### 〈もも〉

- アブラムシ類を対象に散布する場合、モモアカアブラムシなどの休眠卵で樹上越冬するアブラムシ類対象に発芽前使用。

#### 〈桑〉

- 発芽後の散布は葉害を生じるので、冬期又は夏切直後に使用する。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきる。
- 散布液調製後は速やかに使用。
- 散布直後の降雨は、効果の低下となる。特に冬期では晴天の続く時に散布。
- 高温時の散布は葉害を生じやすいので、散布は日中をさけ朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行う。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤やジチアノン剤、TPN 剤など及び銅剤との混用はさける。
- かんきつに使用する場合は下記の事項に注意する。

○散布後、葉（特に旧葉）に油浸斑を生じることがあるが日数の経過に従って消失し、落葉を助長することはない。但し、樹勢が弱っている場合は散布しない。

○ジチアノン剤との近接散布はさける（果実に葉害）。

○3月に本剤を使用する時は、なるべく早めに散布する。この場合石灰硫黄合剤の散布はさける。

○ジメトエート剤との混用はヤノネカイガラムシ第一世代防除時期には、樹勢により落葉を助長することがあるのでさける。

- 落葉果樹に使用する場合は下記の事項に注意する。

○芽が動き出してから散布すると葉害を生じるおそれがあるので散布しない。

○樹勢が弱っている場合は葉害を生じるおそれがあるので散布しない。

- うめに使用する場合は落葉期での散布はさける。

### 【安全対策上の注意】……………

- 魚類、甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。

- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器等は適切に処理する。

- 自動車などにかからないようにする（塗装汚染）。



【適用と使用方法】 .....

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	マシン油を含む 農薬の総使用回数
か ん き つ	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	30～ 45倍	冬期	—	散布	—
	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ ハダニ類	100～ 200倍	夏期			
落 葉 果 樹 (なし, りんご, かき, もも)	カイガラムシ サビダニ ハダニ類及びその越冬卵	16～ 24倍	—			
落 葉 果 樹 桑	カイガラムシ類	12～ 14倍				
り ん ご (北部日本 芽生前に散布の 場合)		30～ 45倍				
も も	アブラムシ類	25倍				